

委員会視察報告書

委員会名	文教厚生常任委員会
------	-----------

視察地	大阪府池田市
調査項目	教育日本一を目指す池田市の学力向上への取組について
調査目的	学力向上への取組、条例制定の経緯や理念を調査研究し、今後の本市における学力向上への取組の参考とするため
日時	令和7（2025）年10月29日（水）10時～11時30分
場所	池田市役所（大阪府池田市城南1丁目1番1号）
調査概要	<p>【池田市の教育について】</p> <p>池田市には、幼稚園2園、小学校9校、中学校4校、市立義務教育学校1校がある。ほかにも大阪教育大学附属の小学校・中学校・高等学校がある。平成16年から教育のまちに向けた特区に取り組み、平成20年9月から文部科学省の指定を受け、特例校として小学校義務教育において継続発展している英語活動の時間など、特色ある活動、取り組み方を検証し、教育の質向上に努めている。</p> <p>平成20年度から小中一貫教育の研究に取り組み、平成26年度から全中学校区において小中一貫教育を本格実施している。義務教育9年間の学びのつながりを意識し、効果的な指導体制の充実を目指している。また、音楽教育の進行や自然体験学習も池田市の教育の特徴である。</p> <p>教育委員会からの研究委託事業として、所管する全ての学校において特色ある研究活動を実施している。数字に示される学力だけではなく、子どもたちの学びの姿にこそ、学力の本質が現れた。共通の学力観の下、各校で研究主題を設定し、子どもの姿に学ぶ実践研究を積み重ねている。また、その研究主題の具現化する子どもの姿を見る場として、所管する全ての学校で公開授業研究会を実施している。</p> <p>【子どもの学力向上・条例】</p> <p>平成28年に「教育日本一」という目標を掲げ、基本理念を定めた「豊かな心、確かな学力及び健やかな身体を育み、世界に羽ばたく子どもを育てる教育日本一のまち池田条例」は、学力向上のみを目指すものではなく、一つでも秀でたところを作り上げていこうというスローガンだ。理念を達成するために、就学前の子どもも含めて、池田市で池田の子どもたちが日本で一番質の高い教育を受けられるようにしたいという考</p>

えが込められている。シニア世代から保護者にも分かりやすく発信するために、条例名を見ただけで、その理念、子どもたちが目指す内容が分かるように工夫した。

【小中一貫教育の成果と課題】

学びの連続性を大切にした教育を研究し、平成26年度から市内中学校区を各学校園と呼称し、義務教育9年間の学びのつながりを意識した効果的な指導体制の充実を図っている。平成30年に池田市立総合学園（義務教育学校）が開校された。施設分離型と施設一体型の形態で小中一貫教育を展開している。

<成果>

- 小学校から中学校への段差解消（スムーズな移行）
- 教員間における発達段階に応じた子ども理解
 - 各学校園の交流を通して、目指すべき子どもの姿やビジョンの共有
 - 各学校園で、特色ある取組を展開

<課題>

- 物理的な距離感による負担感
 - 単発的な行事や日常の交流の解消に向けた取組の必要性
- 小・中学校における教育間での見えない文化の壁
 - 教科学習及び授業規律における子どもたちの学び方や学びの姿が一貫したものとなるよう研究推進の必要性

【育児教育サポートチーム】

幼児期から義務教育を貫く学びのつながりを重視し、全ての子どもたちが学ぶ喜びを感じられるよう一人一人の個性や強みを生かす視点に立った教育を進める。

- ① 幼児教育の充実支援
- ② 施設訪問と情報発信
- ③ 研修企画
- ④ 保・幼・小連携の推進

【学力向上施策 研究推進委託事業】

○概要

市内学校園における今日的教育課題について、実践研究推進を市内全16学校園の研究会に委託

- 委託テーマ例 令和5～7年「子どもの豊かな育ち」
 - 令和2～4年「力のある学校」
 - 平成29～31年「授業力向上」

→時代の変化に対応した資質・能力の育成、特色ある学校園づくりを目指す指導の実践、研究の推進

- 委託期間 原則3年間（学校公開の実施）

	<p><成果></p> <p>○授業改善に向けた効果的なサイクルの確立</p> <ul style="list-style-type: none">・市が方向性を提示・学校がテーマを設定・主体的研究の文化 <p>○市と学校園が一体となり教育活動を推進</p> <p><課題></p> <p>○学校園間の研究推進力に差</p> <p>○公開研にする賛否</p> <p>○市教委の効果的な支援</p> <p>【学力向上施策 教員研修推進事業】</p> <p>○概要</p> <p>市内学校園の教職員に対して、市や学校が抱える課題について、市が主催となり研修を実施</p> <p>○授業スキルアップ研修（授業参観、分科会講師、全体会講演）</p> <p>情報活用能力の向上及び指導方法の改善</p> <p>国語科における言語能力の向上</p> <p><成果></p> <p>○教員の授業力向上</p> <p>○市の課題に正対した取組の実施</p> <p>○課題を抱える学校園の支援</p> <p><課題></p> <p>○計画的な研修の運営</p> <p>○単発研修から継続的な取組</p> <p>【スタディサプリ】</p> <p>令和6年度からスタディサプリを導入し、子どもたちは自宅で自身の苦手分野や学びたいことを集中的に学習することができる。不登校生徒や別室登校している生徒への学習補償として活用することもできる。</p> <p><成果></p> <p>受験対策講座、入試対策、英検対策、各単元の予習復習、ドリル演習など学力向上に寄与すると考えられる。また、自己調整学習や個別最適学習の実現ができている。</p> <p><課題></p> <p>各学校にスタディサプリについてヒヤリングをしたところ、導入の有無については認知しているが活用方法がよく分からない。</p> <p>【英語教育における施策】</p> <p>○教育課程特例校制度の活用</p> <p>概要 小学校低学年において、年間15時間の英語活動を実施。早期の</p>
--	--

	<p>段階から英語に触れることで、言葉や文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成する。</p> <p>○英語専科教員の配置</p> <p>市費の加配として、英語専科教員を全小学校・義務教育学校に配置</p> <p><成果></p> <p>全国学力・学習状況調査において、全国平均を上回る英語力。幼・小・中を通した一貫教育</p> <p><課題></p> <p>学年が上がるに連れ、英語に対する学習意欲が低下。言語活動の場の充実について課題</p> <p>○外国人英語講師（ALT）の配置</p> <p>7人のALTを市立幼・小・中・義務教育学校に配置。担任や英語専科教員とチームティーチングで授業 (幼少期からネイティブの英語に触れ合うことを目的とする。)</p> <p>【自然や伝統文化など地域資源を生かした特色ある教育の工夫】</p> <p>① 五月山の活用 社会科学習、校外学習</p> <p>② ダイハツ陸上教室の実施</p> <p>③ カップヌードルミュージアムの活用</p> <p>【不登校や特別な才能を持つ子どもへの支援】</p> <p>○令和6年度</p> <ul style="list-style-type: none">・全ての小学校の前期課程に生徒指導担当者を市費で加配・小・中合同の生徒指導担当者連絡会を年40回開催し、合同の研修会を年10回開催・SC（スクールカウンセラー）を全市立学校に週1回35回配置・校内教育支援センターを全市立学校で運営、スクールアシスト配置 <p>○教育委員会が考えるメリット</p> <ul style="list-style-type: none">・教育相談や市の教育支援センター、NPOを選択できる。・学校、NPO、市教委が連携し安心感。三者で定期的な連絡会議、教員対象の見学会を開催 <p>【ICTに係る学習環境整備、情報教育の取組】</p> <p>G I G Aスクール構想に基づき、全児童・生徒・教員へのタブレット端末を配備している。ネットワーク環境を整え、接続環境の整備、大型電子黒板の配備を進めている。端末の活用率は全国平均を大きく上回る。</p> <p>課題は、ランニングコストを含めた環境整備、費用の高騰。また、子どもたちが情報を正しく取り扱うことや適切な態度を学ぶため、情報をもらう教育の充実が必要不可欠</p> <p>○ICT支援員の配置</p>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・市内5中学校区に1～2名の支援員を配置 ・各学校に週1回～2回訪問し、教員の授業負担を軽減し、ICT活用の推進役として重要な役割を担っている。 <p>○ICTが学力に与える影響と教員の授業改善</p> <p>池田市では、子どもたちに創造性と実践力を養い、学びを深めることで学ぶ喜びの創出を目指している。現在では、ICTを使うことが目的の時期は過ぎ、子どもたちの学びを深める学びの進化、実現を目指す段階。子どもたちが自分に合った学習ツールやアプリを個々に選択し、活用することで、個別最適な学習を行い、学びの進化が期待できる。また、各自の考え方を即時に共有、共同編集できるアプリ、色々な共同学習で用いることでコミュニケーション能力はもちろん、新たな価値や考え方を生み出す想像性が養われる。他者とのやり取りを通じた学びは、思考力や問題解決に向かって行動する実践力の向上につながるものと考える。ICT活用は、教員の授業改善にも大いに役立っている。本市が目指すWell-being（ウェル・ビーイング）学ぶ喜びの創出につなげていきたい。</p>
視察の様子	  <p>池田市役所での説明</p> <p>池田市議場にて</p>
質疑応答	<p>質問1 学力向上の成果と非認知能力の取組について</p> <p>回答1 全国学力・学習状況調査については、全国平均を上回っている。非認知能力は興味深く、どのように測ったらよいのか難しいが、研究推進委託事業の中で特別活動学級会を研究している学校がある。子どもたちの学力観を他者との合意形成をしたり、意志決定をして何かことを進めたり、学校行事をどのように進めるかというような研究をしている。非認知能力をどうしていくか研究を進めている。</p> <p>質問2 幼児教育（保育園）をどのように取り組んでいるのか</p> <p>回答2 幼稚園2園は教育委員会所管であり、保育園も市内にはある。園児を小学校につなげていくため一緒に研修会を開き学んでい</p>

る。

質問3 特別支援学校や特別支援学級はあるのか。その対応として、市独自の予算で特別指導員や教育補助員を配置について

回答3 支援教育支援員という形で会計年度任用職員として運用している。支援学級担任と通級指導教室を全校に設置し、通級指導担当職員もいる。支援教育支援員は、14校合わせて93名配置している。

質問4 ギフテッドの取組について

回答4 教育支援センターで個別にあった教材を基に学習をしている。スクールカウンセラーが教育支援センターと連携し、支援や教員に助言を行う事例がある。

質問5 家庭生活や家庭教育の面で教育環境を整える支援について

回答5 各中学校にはスクールソーシャルワーカーを配置している。各家庭の状況が悪化した場合には、ソーシャルワーカーが個別に対応し、福祉の方につなげたり、いろいろな支援を紹介したりしている。日本語指導が必要な児童・生徒が約50～60人在籍している。

質問6 教員の働き方改革と教職員の人事について

回答6 研究授業が負担だと思う方もいるが、池田市は昔から研究授業があるので、基本ベースとして受け入れられ、資質向上につながっている。この地域は三市二町で採用している。

質問7 より良い教育を求めて移住する方の声について

回答7 フリースクールが独自のやり方で、それを求める方はいる。小中一貫教育のほそごう学園は市内から行きたいとの声を聞いている。

質問8 公設民営フリースクールの人員配置について

回答8 常勤で働いている職員ばかりではなく、十数名で運営してい

	<p>る。委託という形で池田市から委託料を支払っている。</p> <p>質問9 英語教育で学年が上がると意欲が下がるのはなぜか。</p> <p>回答9 低学年は楽しい授業内容であるが、高学年の内容だと楽しいより難しいと感じることが影響している。</p>
委員会所感	<p>【山本博文】</p> <p>池田市は「教育日本一のまち池田条例」に基づき、日本一質の高い教育を目指していた。施策の柱は、幼児教育から中学校までの「学びの連続性」の重視であり、全中学校区で小中一貫教育を実施し、保育所を含む就学前教育の質向上にも注力。学力向上策として、独自の「研究推進委託事業」や外部講師研修、全中学校区へのオンライン学習ツール「スタディサプリ」導入による個別最適学習を推進。特に、英語教育は小学校低学年からの実施や外部試験での全国平均超えを達成し、地域資源(カップヌードルミュージアム等)を活用した探求学習も行っていた。また、不登校支援では、全小・中学校に「校内教育支援センター」を常設し、運営補助としてスクールアシストメイト(SAM)を配置し不登校者数の抑制につなげていた。さらに、公設民営フリースクール「スマイルファクトリー」(NPO委託)は、市内在住者に無料で利用機会を提供し、不登校率の抑制に大きく貢献。その他にも、スクールソーシャルワーカー(SSW)による家庭・福祉連携、外国人家庭への日本語指導支援、ICT環境(iPad)を活用した個別最適な学びの推進など、多角的な支援で子どもの Well-being 実現を目指すとしていた。柏崎市でも活用できる部分を提案していきたい。</p> <p>【池野里美】</p> <p>池田市は、平成28年に「池田の子どもは、池田市と池田市民全員の宝です」から始まる「豊かな心、確かな学力及び健やかな身体を育み、世界に羽ばたく子どもを育てる教育日本一のまち池田条例」を制定し力を入れている。条例名が長いのは、保護者や市民へ分かりやすく理念を伝えるためだと伺ったが、池田市の子どもたちの豊かな学びを育みたいという本気度が表れていると感じた。「子どもたちの学びの姿にこそ学力の本質がある」との考え方から、全ての学校で特色ある授業研究を行い、3年に一度公開授業も行っており、教員研修推進事業として外部講師に入っていただき、教員の質の向上にも力を入れているとのことで、素晴らしい取組だと感じた。</p> <p>昨今は不登校傾向の児童も増えてきていることから、市内全校に別室登校できる教室を確保し、元教員や大学生などの「スクールアシストメント」と呼ばれる人材を配置。また、廃校を活用した公設民営で Smile</p>

Factory というフリースクールを立ち上げ、NPO に委託し運営してもらっており、市内の子どもは無料で通え、ここで学ぶと出席扱いとなるよう連携もしている。この定員は50人のところ、他市から転入希望も多いが、市内の子どもを優先し、お断りすることもある。現在は市内の子どもが45人とのことであった。

「教育日本一のまち」とは、学力をただ伸ばすということではなく、全ての子どもたちが安心して過ごし、学べる居場所や人材を確保していくことであるという方針が非常に素晴らしい、柏崎でも取り入れたいと感じた視察であった。

【三嶋崇史】

「教育のまち池田」が描く Well-being 教育の力で個人と社会の幸福感を創造。池田市教育振興基本計画にある一文である。学ぶ喜びの中で創造性と実践力を育み、学ぶ喜びを創出する。この理念を基に各事業が進められ、教育の質を高めている。私が注目した点は、小中一貫教育9年間の学びのつながりである。進級の移行、指導体制の連携がスムーズに行われ、子どもたちの学ぶ喜びや個性を生かす取組がうかがえた。また、説明の中で「子どもたちの学ぶ姿にこそ学力の本質がある」、これは現場での経験や実績に基づいた言葉であり、学習環境の充実や教職員の指導力があるからこそである。基礎学力の向上、学習環境、教職員のスキル、保護者の協力、家庭学習、地域社会とのつながりが学力向上には必要不可欠である。

教育日本一を掲げ、条例を制定している池田市の取組は、調査研究する上で学び多きものとなった。

【田邊優香】

池田市では「教育日本一のまち池田条例」に基づき、学力だけではない子どもの学びの姿を重視した教育施策が展開されているように感じた。小中一貫教育や就学前教育の質向上、ICT 活用による個別最適学習、地域資源を生かした探求学習など、学びの連続性を意識した取組が印象的だった。また、不登校支援では校内教育支援センターや公設民営フリースクールの設置、スクールソーシャルワーカーによる家庭支援など、多角的な支援体制が整備されており、子どもの Well-being 向上に向けた姿勢が感じられた。柏崎市でも参考にできる点が多いのではないかと感じた。

【持田繁義】

提起した細かな質問に各担当者が全て丁寧に答えていただいたこと

は、基礎自治体としての本気度、教育日本一を目指すにふさわしい計画とともに実践で裏付けられていることを垣間見ることができた。

印象に残ることは、子どもは「池田市民全員の宝」と規定するとともに「教育のまち池田」として条例を制定したこと。正に学校、地域、社会の Well-being を目指している。キーワードに「育む」「伸ばす」「支える」「広げる」を掲げ、「学ぶ喜びの中で創造性と実践力を育み、その創造性と実践力を生かす中でまた学ぶ喜びを創出する」としたことは、学びの循環性を高め未来を見ていることを意味している。

【重野正毅】

人口10.2万人、コンパクトな市域の中で、小学校9校、中学校4校、義務教育学校1校と附属の小・中学校がある環境。

条例として制定したものは、「教育日本一のまち」であり学力日本一ではない。説明では学力としての数値の話はほとんどなく、目的等として「子どもの学びの姿にこそ学びの本質がある」「質の高い教育を受けられるよう整備をしていく」「子ども一人一人が輝く人生を歩み、次世代を担っていくという願いを込めて」として教員の資質の向上を含めた授業改善や環境整備に力を入れていることが分かった。これを受け学校現場では、共通課題の下各学校で工夫を凝らした研究を進めている様子が感じられた。認知能力の向上もさることながら、非認知能力の育成を前提とした取組をしているように受け止めた。その評価もアンケート形式ではあるが、指標を整え行っていたことは素晴らしいと思った。柏崎市でも取り入れられると思う。

特別支援や不登校児童生徒、機能不全と思われる家庭への取組として市独自予算の中での介助員93名の配置、公設民営のフリースクールの設置、スクールソーシャルワーカーによる個別支援と他部署との連携、親向けの教育講座の開催などやれることは確実に取り組んでいた。ただ、ギフテッドの子どもへの対応というところではまだ環境が整っていないようで、その視点も十分とはいえない様子だった。公教育でギフテッドの子どもをどう支援していくのかは、引き続き個人的に研究していく。

【相澤宗一】

池田市は「教育日本一のまち池田条例」に基づき、学力の高さを競うのではなく、子ども一人一人の学びの質を高めることを目的としている点が印象的であった。市域人口約10万人とコンパクトながら、小・中学校や義務教育学校を中心に、全市的に小中一貫教育を推進し、「学びの連続性」を重視した教育体制を整備している。教員の資質向上を目的とし

	<p>た研究推進委託事業や外部講師研修、オンライン学習ツールの導入による個別最適学習の推進など、授業改善への取組が体系的に進められていた。不登校対策では、公設民営フリースクール「スマイルファクトリー」の設置やスクールソーシャルワーカーの活用、家庭支援との連携など多角的な支援を展開。特別支援教育や外国人家庭への支援も含め、誰一人取り残さない教育を実践しており、柏崎市においても参考となる取組が多く見られた。</p>
--	---